

## 生体小腸移植ガイドライン

### I. レシピエント適応基準

1. 不可逆的小腸不全となっていること
2. 以下の状態となっていること
  - (1) TPN を行う中枢ルートがなくなることが予測されること
  - (2) 小腸機能不全並びに TPN のため、肝障害をはじめ他の臓器に障害がもたらされている、またはもたらされることが予測されること
  - (3) 小腸機能不全のため著しく生活の質が落ちている場合
3. 以下の状態を伴わないこと
  - (1) 制御不能の活動性感染症
  - (2) 制御不能の悪性腫瘍

### II. ドナー適応基準

1. 適応条件
  - (1) ABO 血液型の一致および適合していること
  - (2) 体重差が-50%~200%であることが望ましい
  - (3) CMV 抗体陰性のレシピエントに対しては、CMV 抗体陰性のドナーが望ましい。
2. 以下の疾患または状態を伴わないこととする
  - (1) 全身性活動性感染症
  - (2) HIV 抗体、HBs 抗原、HCV 抗体陽性
  - (3) 悪性腫瘍（治癒したと考えられるものを除く）
  - (4) ドナーの HLA-A,B,DR のすべてにホモ接合体が存在し、レシピエントがドナーのハプロタイプを共有するヘテロ接合体である場合。
3. 以下の疾患または状態が存在する場合は慎重に適応を決定する
  - (1) レシピエントの治療に危険を与える可能性のある合併疾患
  - (2) ドナーの手術の危険を高めるか、提供手術後に悪化の予測される合併疾患
  - (3) 65 歳以上

### III. 生体小腸移植の移植実施施設基準

- (1) 施設内の倫理委員会で生体小腸移植実施の承認を受けていること
- (2) 厚生労働省「臓器移植に関する法律」の運用に関する指針、世界保健機関「ヒト臓器移植に関する指針」、国際移植学会倫理指針、日本移植学会倫理指針、日本移植学会「生体小腸移植ガイドライン」を遵守していること。

### IV. その他

上記ガイドラインについては、今後の移植医療の定着及び移植の実績の評価等を踏まえ、適時見直すことにする。